

# 大崎市子どもの心のケアハウスだより

《7月号》

大崎市教育委員会

## 子どもの「やる気スイッチ」は誰が押す？

子どもがリビングで寝そべっていたり、ゲームに夢中になっていたりする姿を見て、「うちの子のやる気スイッチはどこにあるのかしら？」と嘆かれる方も多くいると思います。「宿題やったの？」「いつまで遊んでるの！」と毎日のように言い続けても、肝心の子どものやる気が出て来なければ、親の声がけは効果がないどころか、親子関係に影響を及ぼすことにもなりかねません。何も言わなくても子どもが自ら進んでいろいろなことに取り組み、親子ともに心穏やかに過ごせるようになるには、子どもの「やる気スイッチ」を上手に押す必要があります。



**「この言葉をかけたら子どもがやる気になる」というような魔法の言葉は存在しません。**

また、「やる気スイッチ」を自分で入れることができる子どももありますが、初めの頃は親がタイミングを見計らって押してあげるケースも少なくありません。「やる気」が習慣化してくると、子どもは自分でスイッチを入れられるようになってきます。「やる気」はもって生まれた性格ではなく、親が上手に引き出して身に付けることのできるスキルです。



やる気スイッチを自分で入れられるようになると、勉強や習いごと、家でのお手伝いなどに対して、主体的に目標を見出して楽しんでこなせるようになっていきます。これは、子どもたちが成長していくプロセスにおいて「本意でもやらなければいけないこと」に直面したときの克服する力になります。学校であればテストや受験に向けての勉強、社会人になってからも仕事のプレッシャーや職場での人間関係など、「やりたくないなあ」と思いながらもやらなければいけないことはたくさんあります。いつも楽しくおもしろいことばかりとは限りません。これらの克服すべき壁に対して子どものうちに「やる気スイッチ」を自分で入れられるようにしておくと、上手に乗り越えてきた経験が自信となって意味を見出して意欲的に取り組むことができるのです。

子どもたちは、どんな時にスイッチが入るのでしょうか？ スポーツ選手の活躍に憧れた、学校の授業がおもしろかった、博物館や美術館を見学した、病気をお医者さんが治してくれた、映画に感動した、マンガに心惹かれた、伝記を読んだ、職場体験に行った、高校のオープンスクールに参加した…など、きっかけはいろいろで、どの子どもにもやる気スイッチが入るきっかけとの出会いが必ずあるはずです。

**『夏休みはやる気スイッチを入れるきっかけに出会う絶好のチャンス』**です。

スイッチを押せるのは「これをやりたい。自分ならできるはずだ」と思える子ども自身で、自己肯定感が高いと自信をもってやってみようと思えます。親は**「子どもの自己肯定感を育てながら、やる気スイッチを子どもが自分で入れるのを温かく見守る・待つ」**ことが大事です。親がスイッチを押すのではなく、自分でスイッチを入れられる子どもに育てましょう。

### 小・中学生や保護者、教職員を対象にカウンセリング相談室を開設します。

お子さんの学校生活を送る上での悩みや子育てで気になることなど、お気軽にご相談ください。相談は予約制となりますので、下記の電話番号にご連絡ください。

- ◆ 日程：8月3日（木）・8月4日（金）・8月21日（月）
- ◇ 時間：①10:00～10:50 ②11:00～11:50 ③13:00～13:50  
④14:00～14:50 ⑤15:00～15:50
- ◆ 場所：旧大崎市中央公民館（市民会館隣り）
- ◇ スクールカウンセラー： 萱場 るみ さん（臨床心理士）
- ◆ 予約： ☎ 080-6058-1894（野村）までご連絡ください。